

令和5年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第1回専門部会（合同部会）を開催しました

「住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域」を目指していくために、令和5年度から7年度までの3年間、一緒に部会活動をしていく委員の皆さんと第1回専門部会を合同で開催しました。

《開催日》 令和5年7月27日（木）

《会場》 上越市市民プラザ

《出席者》

入退院時連携推進部会：8人

対人支援スキルアップ部会：8人

急変時対応部会：7人

市民啓発部会：7人

上越地域在宅医療推進センター：1人

事務局：12人 計43人

◆合同部会

7月21日に行われた在宅医療・介護連携推進協議会の報告及び上越地域が目指す在宅医療・介護連携について、事務局から説明をした後、各部会に分かれて検討を行いました。

◆入退院時連携推進部会

部会長：和栗 健 委員

（センター病院居宅介護支援事業所）

副部会長：利根川 典子 委員

（上越総合病医院 地域連携センター）



○部会の目標は「在宅・医療・施設と移行していく際に、切れ目なく、かつ円滑に医療・ケアが提供される」「ケアマネや病院がガイドライン・フロー図を理解し、実践できる」としました。今年度は、連携ツールの更なる活用を目指して意見交換をしていきます。

○それぞれの現場での連携ツールの活用状況や、現時点で課題に感じていること、今後部会で取り組みたいこと等、意見交換を行いました。

○病院だけでなく、身近な医療機関である診療所との連携時にも連携ツールを活用できるよう連携の質向上に向けた取り組みを話し合います。

第2回部会：9月29日（金）19時～

福祉交流プラザ 連合会事務局

◆対人支援スキルアップ部会

部会長：瀬下 善人 委員

（悠久の里居宅介護支援事業所）

副部会長：井上 尚子 委員

（地域包括支援センターたかだ）



○部会の目標は「本人や家族、専門職が互いに満足できる医療とケアが提供できるよう、対人支援についての共通理念を理解する」

とし、今年度は、事例検討をとおして、意見交換をしながら理念の共感を図っていきます。

○第2期の取り組みから見えた課題を踏まえ、部会で作成した研修ツールを活用した更なる周知啓発に関する取り組みを行い、本人や家族と関係する方々が“チーム”で連携し、同じ理念に向かって支援できるように活動していきます。

○まずは、全部会の委員への研修を行い、支援をする中で大切にしたい支援者の考え方や関わり方を共有したいと思います。

研修会：9月20日（水）19時～
教育プラザ 大会議室

◆急変時対応部会

部会長：仲田 亜矢子 委員
（上越あたご地域包括支援センター三和）
副部会長：西條 美雪 委員
（訪問看護ステーションけいなん）



○部会の目標は、「本人、家族、医療・介護関係者が、本人の意向や病状、急変時対応の共有ができる」としました。

○介護関係者、医療機関、消防局に属する部会員のそれぞれの立場から、急変時対応に関する日頃感じていることを共有しました。

○第2期の取組みからもみえましたが、「急変時」の捉え方が立場によって異なるため、まずは、部会で検討する際の「急変」の定義を定めることとしました。

○地域連携連絡票や救急医療情報キットなど、既存の情報共有ツールを活用することで、

チームとして情報を共有し、本人の意向を引き出しながら適切な対応がとれるよう、部会で話し合いを進めていきます。

第2回部会：10月12日（木）19時～
福祉交流プラザ 連合会事務室

◆市民啓発部会

部会長：小山 志穂 委員
（しおさいの里地域包括支援センター）
副部会長：柴又 良太 委員
（共創未来はまなす薬局）



○部会の目標は、「市民が、思っていることや大切にしたいことを考え、家族や専門職と共有できる。」としました。

○医師、介護支援専門員、地域包括支援センター、薬剤師、栄養士、施設職員等、部会員それぞれの立場から、人生会議や ACP に関するエピソードや思い、現在の取組状況等について意見交換を行いました。

○これまでの取組から見えてきた課題を踏まえながら、今回は、具体的な啓発方法や啓発するターゲット等についてそれぞれの意見を持ち寄り、今後3年間の取組内容について検討していきます。

第2回部会：10月6日（金）19時～
教育プラザ 小会議室

※次回から、日時・会場ともに部会毎で異なります。MCS（メディカルケアステーション）を通して案内します。